

～人権同和集会開催～

10月27日(土)13:00～16:00 若穂支所会議室において、区長部会/人権同和教育促進委員会が主催し、長野市が後援する『人権を尊び差別のない明るい若穂を築く市民集会』が開催され200名を超える参加がありました。

綿内小学校児童4名のみなさんの作文発表、若穂中学校吹奏楽部の演奏、また長野市人権・男女共同参画課の指導主事/木内昇様による演題「ともに支え合う社会をねがって」/DVD「秋桜の咲く日」映像を交えた障害者の人権について講演があり、最後に保科小学校PTA副会長による集会宣言の朗読があり承認されました。



綿内小児童の作文発表

◇若穂文化祭(第22回)開催◇

11月1日(木)～3日(土) 若穂公民館、若穂支所2Fを会場に若穂文化振興会主催、若穂公民館共催による第22回若穂文化祭が開かれました。作品は絵画・書道・手芸・写真・パッチワークなどが出展されています。演奏会は綿内小学校合唱団・泉コーラス・アトリエCOCO&保科小学校/合唱、若穂エーデルワイス/コカリナ演奏、聖風流吟道会/詩吟、

ベルフレンズ/ベル演奏、雪泉会/観世流謡曲、ひまわりの会/オカリナ演奏、若穂中学校吹奏楽部の演奏があり、2時間半演奏が行われました。観客はいろいろな合唱・演奏などを堪能しました。



第22回若穂文化祭演奏会



雪泉会 吉野天人の謡い

◇とびっくラン in 若穂(第7回)開催◇

11月11日(日) 若穂中央公園多目的グラウンドをスタート・フィニッシュに第7回大会が開催されました。今年は1802名が、遠くは大阪・愛知・石川・東京から、1歳から最高95歳の方が参加。当日は快晴に恵まれ沿道の大声援を受け、紅葉の山々を背景にコースを気持ち良く走り汗を流しました。



加藤久雄市長3Kmラン完走

役員、実行委員、ボランティアの方々が今年の3月から、当日は早朝より準備が行われランナー・応援の方々を暖かく迎えることが出来ました。ゴールされた大勢のランナー/来場者の皆様はおもてなしコーナーのジビエ汁、キノコ汁、おむすび、リンゴ、ぶどうなどを堪能していました。また、コースに設置された距離表示看板は綿内小・川田小・保科小・若穂中学校の児童/生徒の皆さんの作成によります。大会開催にあたり大勢の皆様から多大なご支援ご協力を頂きありがとうございました。

☆わかほこどもまつり(第9回)ひらかれる☆

11月17日(日)13:00～15:00に子育て青少年部会の主催で若穂こどもまつりが支所2Fで開かれました。子どもたちとママ友を入れて約200人が集まり、わなげ・ボーリングを楽しみました。また、工作コーナーがあり大勢集まってドングリを使ったやじろべいなどを作ったり、紙芝居を楽しみました。リサイクルひろばには若穂地区の皆様から寄贈頂いた、おもちゃ/絵本/子ども服/

子ども用品などが集められ、交換会が開かれ大変賑わいました。



～ 地域福祉ワーカー(常勤)の募集 ～

若穂地区住民自治協議会では地域福祉活動の強化・充実を図るため、下記のとおり地域福祉ワーカーを募集いたします。地域福祉の課題解決にご協力をお願いします。

職種:地域福祉ワーカー 募集人員: 1名 勤務場所:若穂地区住民自治協議会事務局

勤務条件:月 21日以内 1日6時間勤務(午前9時30分から午後4時30分)

時間給 850円 通勤手当有 社会保険無 労働保険有

雇用期間:平成31年2月1日～平成32年3月31日 1年間(以降再雇用有)

職務内容:地域福祉活動計画における実施計画の推進、長野市/長野市社会福祉協議会等の補助金申請及び報告事務、社会福祉部会・福祉保健部会の支援等、パソコン(エクセル、ワード)の出来る方

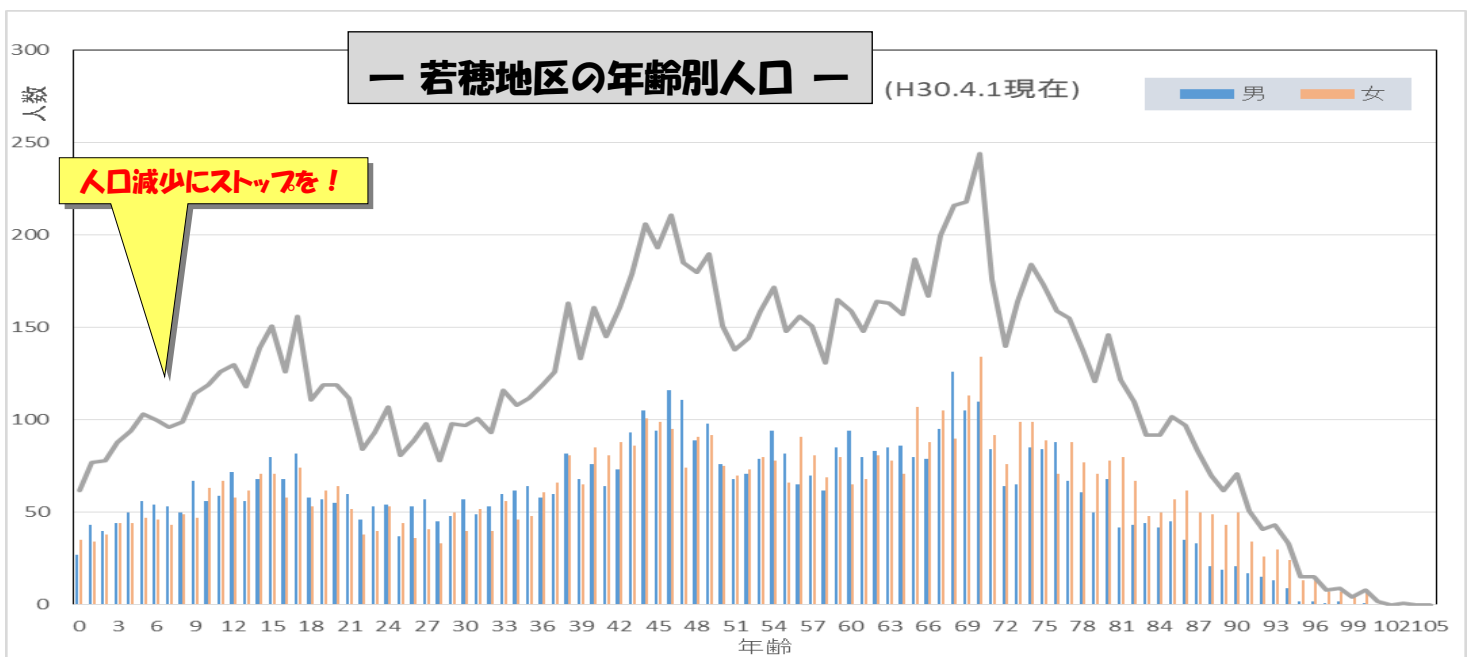
申込受付:平成30年12月3日(月)～平成31年1月16日(水)/午前9時30分～午後5時

応募方法:申込受付期間内に履歴書を若穂地区住民自治協議会事務局まで持参または郵送ください。

面接を持って採否を決定します。(面接日は申込者に直接連絡します。)

詳細等は、若穂地区住民自治協議会事務局にお問い合わせください。

電話:050-3583-5700 担当:刈間・青木



このグラフはH30年4月1日現在の若穂地区の年齢別人口を示しています。日本の年齢別人口と同様にピークは団塊の世代と団塊の世代の子供世代、その子の孫世代にあります。傾向としては

- ① 少子高齢化が著しく、年齢別人口が徐々に減少して来ている。
- ② 8,9歳以下は100人を切って減少していて、50人に近づこうとしている。50,60人となれば団塊世代の250人の1/4～1/5であり、若穂全体で小・中学校は2クラス/学年となる。
- ③ 子育て世代(25～35歳)が谷にあたり少子化に拍車がかかる。また独身者が多いことも少子化の一因になっている。このままでは50人以下になる。

以上が若穂地区の少子高齢化の現状です。先月号(139号)の空き家対策と同様、**少子化対策**が急務です。若穂在住の皆様、自治協/区長会/まちづくり部会/等にご意見をお寄せください!

自治協 E-mail:wakaho.j@grn.janis.or.jp

◇農家民泊はじまる◇

今年の2月に発足した「若穂農家民泊の会」では、10月17日～18日に記念すべき第一回目の受入れを行いました。受入れたのは奈良県立奈良北高等学校の2年生2クラス84名で、22軒の受入れ家庭に分宿しました。夕方「若穂果実流通センター」に到着した生徒たちは多少緊張した面持ちでしたが、夕食を済ませるころにはすっかり打解けていたようです。翌日12時の退村式までの間、受入家庭毎の体験メニューで農村生活を体験し、次の予定地に旅立っていきました。



入村式(若穂果実流通センター)

問合せ 若穂地区住民自治協議会事務局 (長野市若穂支所内) ☎050-3583-5700